順天堂大学医学部附属浦安病院
麻酔科専門研修プログラム

Ver. 2

2025 年度版

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

1）麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで国民の健康・福祉の増進に貢献する。

2）麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。本専門研修プログラムの概要と特長を以下に述べる。

1）豊富で充実した関連研修病院群

順天堂大学医学部附属浦安病院を責任基幹施設とし、専門研修連携施設として順天堂大学医学部附属順天堂医院、順天堂大学医学部附属静岡病院、等を含め、これらの施設において、整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムに基づく教育とトレーニングを提供し、専攻医が十分な知識と技術、そして判断力を備えた麻酔科専門医となるよう育成する。本郷プログラムとは独立した研修プログラムである。千葉県内にも研修施設を有し、十分な研修を積むことができる。

2）全診療科における十分な手術症例数とさらなる拡張性

本プログラムの手術麻酔に関する臨床トレーニングにおける特徴は、心臓血管外科、小児外科、産科、脳神経外科、呼吸器外科などの専門医取得にあたって必要な必須症例を十分に経験できるだけでなく、麻酔科全般におけるトレーニングを広く受けられることである。心臓血管外科、小児外科、脳神経外科、呼吸器外科などの症例数は全国の大学附属病院の中でもいずれもトップクラスにあり、ロボット支援下手術や新生児の内視鏡肺手術など先進的な医療を多く行っている。順天堂大学附属病院群における麻酔科管理症例は年間2万件を超えており、麻酔科学および全般的な麻酔管理を学ぶ条件が整っている。2020年から順天堂大学浦安病院では産科麻酔部門が強化され、無痛分娩の研修体制が始められた。浦安病院の2023年度から3年つづけて年間手術症例数は1万件を超えた。浦安病院では、専門研修病院として、小児病院、循環器病センターなどを有している。また、千葉県プログラムに対応する病院群として、船橋医療センター、千葉こども病院、行徳総合病院を茨城県プログラムに対応する病院群として、土浦協同病院、国立病院水戸医療センターとプログラム連携をしている。

3）Scientific mindをもった麻酔科専門医の養成

本プログラムではscientific mindをもった麻酔科専門医の養成も目指している。生涯教育のためには、論文や教科書を読みこなし正しく評価するための科学的な視点が必要である。豊富な臨床例を基にした臨床論文のほか、基礎研究室における基礎研究、それらの橋渡しとなるtranslational researchのトレーニングも充実している。麻酔科専門医となるための臨床的なトレーニングに加え、医学博士の学位を取得するためのプログラムも備えており、両者を同時に取得することも可能とするようなシステムとなっている。順天堂大学の基礎医学教室だけでなく、国内留学として他大学や他県の研究所で基礎研究の指導を受けることができる。論文はインパクトファクターの高い国際誌にも掲載されている。2026年現在、プログラム内の大学院進学率は10%程度である。働きながら学位を取得できるプログラムを形成している。

4）地域医療への貢献

順天堂大学医学部附属浦安病院麻酔科プログラムの関連施設には、東海地区の僻地医療を担う順天堂静岡病院がある。関連施設には地域の基幹病院である船橋医療センターや水戸医療センター、土浦協同病院、水戸済生会病院総合病院がある。

5）国際的視野をもった麻酔科専門医の養成、ECFMG取得大学院コースの設置

本プログラムでは国際的な視野を得るための機会も豊富にある。また、大学院に進学し、しかも法人からの給与を得ながらUSMLE、 ECFMGに合格・資格取得するコースも準備されている。海外における学会発表のほか、希望者は研修終了後に海外留学も可能である。大学院ECFMG取得コースの場合には、在学中に半年程度の短期留学も認められている。サバティカル研修を使って海外で研究を行うことも可能である。

6）法人の麻酔科医の重要性についての理解と女性麻酔科医が働きやすい環境

麻酔科医の仕事の重要性とハードさについては法人も理解しており、さまざまな優遇処置もとられている。女性麻酔科医ばかりでなく、産休、育休、当直など夜間勤務の免除・軽減が必要な麻酔科医の勤務に柔軟に対応し、一時期非常勤医としての勤務など産休・育休後の復帰が容易となるような勤務体制もとっている。

7）個人の求めるキャリアパスに応じた対応

以上をまとめると、scientific mindをもった麻酔科専門医となるだけでなく、さらにペインクリニックや集中治療などのサブスペシャリティの専門医資格を得たり、学位を取得したり、海外留学をしたりするなど、各人の求めるキャリアパスに応じた教育やトレーニングを提供することが本プログラムの大きな特徴である。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに記載した。

3. 専門研修プログラムの運営方針

1) 責任基幹施設である本施設における研修は1～4年とし、専門研修連携施設AおよびBにおける研修は合計で1～3年とする。

2) 目標症例数はローテーションする診療科の麻酔（長時間手術１～2 例のものから、短時間手術4～6 例/日）や、ペインクリニックや集中治療のローテーション期間にも影響されるが、順天堂大学医学部附属浦安病院においては年間300～400例とする。

3) 麻酔科専門医取得に必要な症例数は本施設ですべて提供できる。個々の麻酔法や麻酔に対する考え方などは施設や外科系診療科の方針により異なる場合がある。必須症例を満たすだけでなく、幅広い麻酔科研修を受けられるよう専門研修連携施設とのローテーションを行う。順天堂大学附属病院群における麻酔科管理症例は年間2万件を超えており、十分な麻酔経験を積むことができる。（浦安病院病院では年間約1万件の手術を実施している。）

4) 順天堂浦安病院におけるローテーションは１年単位を基本とするが、個人の希望や施設の事情によっては6か月のローテーションも受け入れる。専門研修連携施設Bにおける研修は原則として６か月を基本単位とし、個人の希望および研修内容により６か月ごとの延長が可能だが2年間は越えない。

5) 本プログラムに学ぶすべての専攻生が、経験目標として提示されている特殊麻酔症例数のトレーニングを受けられるようにローテーションを構築する。個人のトレーニングの実施状況や目標到達状況に応じた教育とトレーニングが受けられるよう、順天堂大学浦安病院および専門研修連携施設A・Bが強い連携を持ってローテーションプログラムを定期的に検討し、改善に取り組むとともに、専攻生の希望と到達目標の達成度に合ったローテーションプログラムを組む。

6) 臨床・基礎研究を行い、国内・国際学会での発表や、論文作成ができるように指導する。

7） ペインクリニック、緩和ケア、集中治療などのサブスペシャリティのトレーニングを提供する。希望者にはそれぞれの領域における専門医取得ができるようにトレーニングを実施する。

8） 研修期間終了後は、他の領域を含む専門医資格や学位に応じて大学・病院スタッフとして採用される道が開けている。

9）浦安病院ではさらに、都立小児医療センター、千葉こども病院、埼玉小児医療センター、茨城県立こども病院などの小児専門施設に加え、2023年度からは循環器麻酔専門研修として心臓病センター榊原病院、ニューワタナベ国際病院との連携を開始した。

■研修医ローテーション例

以下に研修ローテーションの例を提示する。個人の事情・希望に応じて対応するため、バリエーションは多い。将来の専門分野を念頭に置いたプログラムを構成する。1年のローテ―ションを基本単位として表に示すが、前述のように6か月を単位とした研修も認める。学位取得のための大学院入学や、海外留学などをする場合には、研修期間は入学時や留学期間などにより変更する。また、順天堂医院や所属する専門研修連携施設で研修中でも、プログラム内の専門関連研修施設等で週１日勤務することも可能である。

1）施設別

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	順天堂大学浦安病院	順天堂大学浦安病院	専門研修連携施設	順天堂大学浦安病院
B	順天堂大学浦安病院	専門研修連携施設	専門研修連携施設	順天堂大学浦安病院
C	順天堂大学浦安病院	専門研修連携施設	順天堂大学浦安病院	順天堂大学浦安病院

D	順天堂大学浦安病院	順天堂大学浦安病院	順天堂大学浦安病院	専門研修連携施設

基本的に初年度は浦安病院での研修から開始する。2年目以降は浦安病院もしくは関連施設で研修し、3年目は専門研修連携施設、4年目は浦安病院となる。人員数によっては浦安病院の部分を関連施設とすることがある。

2）順天堂大学医学部附属浦安病院における月別ローテーション例

基本的には後期研修1年目から1年を基本としてローテーションを構成する。院外研修では順天堂医院の場合には、心臓麻酔、小児麻酔、産科麻酔、脳神経外科麻酔、ペインクリニック、集中治療などの重点領域のトレーニングを集中的に実施する。当直時に対応できるように全ての診療科の緊急手術を経験することを目標としてトレーニングを行う。

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：74440症例
本研修プログラム全体における総指導医数：128人(按分後　10)
昨年プログラム内専門医試験合格者　3人受験　3人合格

①専門研修基幹施設(プログラム本部)

1）順天堂大学医学部附属浦安病院（以下、浦安病院）

研修実施責任者：髙橋伸二
専門研修指導医：
髙橋　伸二　　(麻酔、集中治療、ペインクリニック)
神山　洋一郎　　(麻酔、集中治療、ペインクリニック)
大和田　哲郎　　(麻酔、心臓麻酔)
保利　直助　　(麻酔)
平本　芳行　　(麻酔、集中治療、救急医学)
小松　茜　　(麻酔)

麻酔専門医：
須賀　芳文　　(麻酔、産科麻酔)
竹田　くるみ　　(麻酔)

磯　早織　　（麻酔、小児麻酔）
山田　至法　　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：342

特徴：手術麻酔全般のほか、ペインクリニック、無痛分娩、をローテーションなく研修可能である。特に、産科、小児外科の症例が多い。初期研修医レジデントと共にレジデントレクチャー、シミュレーショントレーニングがうけられる。

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	387症例
帝王切開術の麻酔	313症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	143 症例
胸部外科手術の麻酔	210 症例
脳神経外科手術の麻酔	246症例

②専門研修連携施設

1）順天堂大学医学部附属順天堂医院（以下，順天堂医院）

研修実施責任者：川越いづみ

専門研修指導医：川越いづみ（呼吸器外科麻酔・区域麻酔)、石川晴士（胸部外科麻酔・術前外来)、赤澤年正（麻酔全般・心臓血管外科麻酔)、長島道生（集中治療)、竹内和世（麻酔全般・小児麻酔)、工藤　治（麻酔全般)、岩田志保子（麻酔全般・心臓血管外科麻酔)、掛水真帆（麻酔全般・心臓血管外科麻酔)、尾堂公彦（麻酔全般・心臓血管外科麻酔)、河邉千佳（麻酔全般・小児麻酔)、安藤　望（麻酔全般・小児麻酔)、阿部まり子（麻酔全般・小児麻酔)、福田征孝（麻酔全般)、豊田有加里（麻酔全般)、櫻谷初奈（麻酔全般)、林　愛　（麻酔全般)、藤野隆史（麻酔全般）岡田尚子（麻酔全般・産科麻酔)、門倉ゆみ子（麻酔全般・産科麻酔)、千葉聡子（ペインクリニック)、山田恵子（ペインクリニック)、原　厚子（ペインクリニック)、濱岡早枝子（ペインクリニック)、武田泰子（ペインクリニック)、太田　浄（ペインクリニック)、林田眞和（心臓血管外科麻酔)、西村欣也（小児麻酔)、井関雅子（ペインクリニック、緩和ケア)、三高千惠子（集中治療)、近江禎子（麻酔全般・産科麻酔）

専門医：稲田美香子（麻酔全般)、山口　愛（麻酔全般)、草野有佳里（麻酔全般)、池田麻里絵（麻酔全般)、伊東由圭（麻酔全般)、宇田川梨子（麻酔全般)、桃井千恵（麻酔全般)、岩佐　美（麻酔全般)、米本周平（麻酔全般)、森　悠子（麻酔全般)、多賀慶子（麻酔全般)、室谷修平（麻酔全般)、廣瀬友基（麻酔全般)、箕浦真奈美（麻酔全般・産科麻酔）

麻酔科認定病院番号　12

特徴：各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため、豊富な麻酔症例を経験でき、各サブスペシャリティーの指導陣も充実している。ペインクリニック、緩和ケア、集中治療、産科麻酔の長期・短期のローテーションも可能である。多職種で構成される包括的な術前外来も整備され、麻酔安全面へ大きく寄与している。

2）船橋市立医療センター

研修実施責任者：五十嶺　伸二

専門研修指導医：五十嶺　伸二（麻酔)、篠浦　央（麻酔)、武光美香子（麻酔・集中治療)、後藤眞理亜（麻酔・集中治療・救急医療)、廣橋　美穂（麻酔)、水嶋知也（救急医療・麻酔)、鳥海　博司（救急医療・麻酔）

専門医：木村友則（麻酔・集中治療・救急医療)、佐藤真理子（麻酔）

認定病院番号　　746
特徴：救命救急センターが併設されており、緊急麻酔、重症患者の麻酔を数多く経験できる。また、さまざまな重症患者にも余裕を持って対応できるよう、救急、集中治療の研修を取り入れており、救急・手術・集中治療と一連の流れでの患者管理も学ぶことができる。上級医師とドクターカーに同乗し、病院前の切迫した重症患者の初療も経験できる。

3）医療法人財団 明理会 行徳総合病院

研修実施責任者:段村 雅人
専門研修指導医:段村 雅人(麻酔、集中治療、救急、心臓血管麻酔)、中西千華(麻酔)、遠藤美沙（麻酔）関口 芳弘(麻酔・ペインクリニック)

麻酔科認定病院番号:第 1743 号
特徴:手術麻酔全般のほか、心臓血管麻酔・ICU 管理等、包括的な研修が可能である。

4）聖路加国際病院
研修実施責任者：阿部　世紀
日本麻酔科学会指導医・厚生労働省認定臨床研修指導医資格：
専門研修指導医:阿部　世紀　（麻酔、小児麻酔）、藤田　信子　（麻酔、心臓麻酔、産科麻酔、ペインクリニック）、佐久間　麻里　（麻酔、救急）、林　怜史　（麻酔、心臓麻酔、ICU）、篠田　麻衣子　（麻酔、区域麻酔）、早坂　知子　（麻酔、区域麻酔）、宮坂　清之　（麻酔、小児麻酔、シミュレーション教育）、小山　杏奈　（麻酔、ペインクリニック、産科麻酔）、城本　菜那　（麻酔、心臓麻酔）、大橋　雄大　（麻酔、産科麻酔）、井上　真由子　（麻酔、心臓麻酔）、坂野　彩　　（麻酔、心臓麻酔）、吉武　朱里　（麻酔、産科麻酔）、蓮下　雄大　（麻酔、ペインクリニック）、山上　郁雄　（麻酔、心臓麻酔）、ハシチウォヴィッチ トマシュ　（麻酔、APS）、鈴木亜沙美　（麻酔、産科麻酔）

当院の手術室は 15 室あり、心臓外科、小児外科、胸部外科、腹部外科、脳神経外科、無痛分娩、また先端医療（TAVI、Mitralclip、Da Vinci 手術（泌尿器、呼吸器外科、婦人科、外科、心臓外科）など）も含めた、幅広い症例が経験できる。

挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できます。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられる。
麻酔科認定病院番号 249

5）東京都立墨東病院

研修プログラム統括責任者： 後藤 尚也
専門研修指導医：後藤 尚也 （麻酔）、永迫 奈巳 （麻酔）、河村 尚人 （麻酔 心臓血管麻酔 ペインクリニック）、平野 敦子 （麻酔 産科麻酔 ペインクリニック）、吉村 敦 （麻酔 ペインクリニック）、櫻井 ともえ（麻酔 小児麻酔）、菊池 暢子（麻酔 ペインクリニック）、桐野 若葉 （麻酔）
専門医：近藤 日向子（麻酔）、山谷 直大 （麻酔）、廣松 大樹（麻酔）

麻酔科認定病院番号 ２６

東京都立墨東病院は東京都東部地域（人口約180万人）の医療における最後の砦として存在する急性期を中心とした基幹型臨床研修病院です。都内最大規模の高度救命救急センター（都内４施設、当院は都内では唯一の非医育機関での認定）、都内最多の母体搬送受入件数を誇る総合周産期母子医療センター（当院の該当するスーパー総合周産期センターは都内６施設のみ）を有します。また、東京都脳卒中急性期医療機関、東京都CCUネットワーク加盟施設、地域がん診療連携拠点病院でもあり、経験できる症例は多岐にわたります。

麻酔科管理手術症例は年間約4700件、緊急手術症例が多く救急症例、重症症例の麻酔管理を日常的に経験出来ます。また、東京都東部ブロックの周産期基幹病院であり、産科麻酔に精通した指導医が常勤し、重症産科救急症例、無痛分娩麻酔を恵まれた環境で研修できます。

先駆的な臨床的取り組みにも積極的に力を入れております。例えば、単孔式胸腔鏡下手術(Uniportal VATS)を日本でいち早く導入した呼吸器外科と連携し、術後早期回復プログラム(ERAS)を導入した１泊２日VATS入院に取り組んでおります。また、呼吸器外科と共同で低侵襲手術研修を目的とした海外研修も希望者は参加できます。

心臓血管麻酔、ペインクリニック、緩和医療の認定研修施設でもあります。院内他診療科とも親密に連携しており、希望があれば集中治療科、救命救急センターの研修も可能です。これらの幅広いサブスペシャリティ専門医資格の取得を視野に入れた研修が行えます。
施設認定実績
・日本ペインクリニック学会指定研修施設

・日本緩和医療学会認定研修施設
・日本集中治療医学会専門研修施設
・日本救急医学会救急科専門医指定施設
・日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設

6）総合病院土浦協同病院

研修実施責任者：石塚　俊介
専門研修指導医：
石塚　俊介（麻酔)、大見　究磨（麻酔）
麻酔専門医：
藤田　七海（麻酔)、中川　理子（麻酔)、町田　大二　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：383

特徴：土浦協同病院は病床数約８００床の総合病院であり、年間の麻酔科管理手術症例は４０００件を超える。救命救急センターとして軽症から最重症までの患者さんに対応し、また高度な治療を目的に転送されてくる患者にも対応しているため、幅広い予定手術症例と緊急度の高い手術症例の麻酔を経験することができる。麻酔科医は8名が専従医として従事しており、専攻医は研修期間中に麻酔科専門医に必要な症例を経験することができる。

7）東京都立駒込病院

研修プログラム統括責任者：佐藤　洋
専門研修指導医：佐藤　洋（麻酔、ペインクリニック)、鈴木　尚生子（麻酔、ペインクリニック)、佐藤　和恵（麻酔)、霜鳥　久（麻酔)、浅野　峰子（麻酔)、田島　明子（麻酔、ペインクリニック)、北澤　みずほ（麻酔)、玉井　悠歩（麻酔）
専門医：山田　亜沙美（麻酔)、大島　悠理（麻酔）

麻酔科認定病院番号：146

特徴：
当院はがん専門病院であるため、がん患者の手術における術前評価および術中術後管理が研修の中心となります。外科系各科の高度専門手術に対して安全な麻酔管理ができる能力を育成します。ロボット支援手術（ダヴィンチ手術）を含めた内視鏡下手術、数

科にまたがるコラボ再建手術などが多いのも特徴です。当院に診療科のない心臓血管外科、産科、小児外科などの麻酔管理は専門研修連携施設での研修を加えることで、専門医に必要な知識と経験を確実に得られるようにしています。また麻酔科の別側面であるペインクリニック研修や、他科研修（緩和ケア診療・救急診療）などを行える環境を整えています。

通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・くも膜下脊髄麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の特殊麻酔を担当医として経験します。

・胸部外科手術の麻酔　呼吸器外科手術（胸腔鏡下及びロボット支援手術)、食道外科手術（含むロボット支援手術）など
・脳神経外科手術の麻酔　覚醒下脳腫瘍摘出術の麻酔管理など
・整形外科の麻酔　脊髄腫瘍、脊椎腫瘍（神経モニタリング）の麻酔管理など
・泌尿器科の麻酔　ミニマム創内視鏡手術、ロボット支援手術（ダヴィンチ手術）
・胃外科・大腸外科・肝胆膵外科・婦人科・耳鼻科・乳腺外科の手術も内視鏡手術やロボット支援手術（ダヴィンチ手術）で行っています。

8）順天堂大学医学部附属静岡病院　（以下静岡病院）

研修実施責任者：尾前 毅

専門研修指導医：尾前 毅（心臓血管麻酔)、洪 景都（麻酔一般，ペインクリニック)、櫻庭 園子（麻酔一般、区域麻酔)、山﨑　翔（麻酔一般)、八子　一（麻酔一般）

専門医：上田　恩来（麻酔一般）

(社)日本麻酔科学会　認定病院番号　422

特徴：静岡県東部で 3 次救急を担う救急救命センター、総合周産期母子医療センター、新生児センター、脳卒中センター、がん治療センターを持つ地域の高度医療を担う中核病院です。また、静岡県東部ドクターヘリ運航拠点病院であり、周産期救急症例を含む多彩な緊急手術症例が豊富です。

9）埼玉県立小児医療センター

研修実施責任者：蔵谷　紀文

専門研修指導医：蔵谷　紀文（麻酔・小児麻酔)、濱屋　和泉（麻酔・小児心臓麻酔)、古賀　洋安（麻酔・小児麻酔)、伊佐田　哲朗（麻酔・小児麻酔)、小嶋　大樹（麻酔・小児麻酔)、大橋　智（麻酔・小児麻酔)、駒崎　真矢（麻酔・小児麻酔)、高田　美

沙（麻酔・小児麻酔）、坂口　雄一（麻酔・小児麻酔）、藤本　由貴（麻酔・小児麻酔）
鴻池　利枝（麻酔・小児麻酔）
専門医：影山　翔一（麻酔・小児麻酔）

認定病院番号　399

特徴：研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されています。小児集中治療の研修も可能です(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。さいたま新都心駅と北与野駅からペデストリアンデッキで直接アクセス可能です。
麻酔科管理症例　3908例（2025年度）

10）東京都立小児総合医療センター

研修実施責任者：西部　伸一
専門研修指導医：西部　伸一（小児麻酔）、山本　信一（小児麻酔）、簑島　梨恵（小児麻酔）、
伊藤　紘子（小児麻酔）、箱根　雅子（小児麻酔）、佐藤　慎（小児麻酔）
専門医：　福島　達郎（小児麻酔）、千田雄太郎（小児麻酔）、和田　涼子（小児麻酔）

認定病院番号：1468

特徴：地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、こころの診療を提供している。年間麻酔管理件数が 4000 件以上と症例数が豊富で、一般的な小児麻酔のトレーニングに加え、新生児麻酔、心臓麻酔、気管形成術の麻酔などの研修が行える。また、積極的に区域麻酔を実施しており、超音波エコーガイド下神経ブロックを指導する体制も整っている。2019 年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている。

※専門研修指導医の要件
当該施設で週 3 日以上麻酔科関連業務に従事していること
以下の①～③のいずれかを満たすこと
① 麻酔科指導医の資格を保有していること
② 麻酔科専門医資格を 1 回以上更新していること
③ 麻酔科専門医を取得しており、麻酔科領域研修委員会の指定する FD 講習会を受講していること

11)千葉県こども病院

研修実施責任者：原　真理子

専門研修指導医：原　真理子（小児麻酔）

専門医：相原　聡（臨床麻酔)、渡辺　麻由（臨床麻酔）

研修委員会認定病院番号　第 521 番取得

特徴： 千葉県の小児医療の中枢を担う施設であり，特に，心臓外科，整形外科の症例が多い。麻酔管理は主として静脈麻酔薬を使用して行っている。薬物動態・薬力学的知見をもとにした科学的な麻酔管理を教育しており，小児の静脈麻酔の研修レベルは国内トップである。また，末梢神経ブロックや IV-PCA などを併用して，術後鎮痛にも積極的に関与している。

12)社会医療法人社団十全会　心臓病センター榊原病院

研修実施責任者：大西佳彦

専門研修指導医：大西佳彦（心臓血管麻酔)、石井智子（心臓血管麻酔）

麻酔科認定病院番号：1142

特徴： 心臓外科領域の麻酔が主である。ＴＡＶＩ、ＭＩＣＳも症例数が多い。

13) 国立病院機構水戸医療センター

研修実施責任者：福島 久史

専門研修指導医：福島久史（麻酔）　：田中芳明（麻酔）

認定病院番号 1207

特徴：水戸市に隣接した茨城町に所在し、地域支援病院、がん診療連携拠点病院、第三次救命救急センター、茨城県ドクターヘリ基地病院、基幹災害拠点病院の指定を受けた、水戸二次医療圏における中心施設のひとつ。

14)順天堂大学医学部附属練馬病院　（以下練馬病院）

順天堂大学医学部附属練馬病院

研修実施責任者：菊地利浩

専門研修指導医：菊地利浩（麻酔科学一般)、田邉豊（ペインクリニック)、天野功二郎（麻酔科学一般・ペインクリニック)、権藤栄蔵（麻酔科学一般・ペインクリニック・心臓麻酔・産科麻酔）

専門医：秋本真梨子（麻酔科学一般・ペインクリニック・心臓麻酔・産科麻酔)、西岡崇（麻酔科学一般・心臓麻酔・産科麻酔)、鈴木香純（麻酔科学一般・産科麻酔）

認定病院番号：1215
特徴：大学病院でありながら地域における医療の中心施設。外科一般はもとより、心臓外科や小児外科手術も行っており、3次救急症例も含めて幅広い症例に対応している。またペインクリニック外来を開設しており、緩和医療や無痛分娩の対応など、麻酔科医の診療活動は多岐にわたっている。

15）国立がん研究センター東病院

研修プログラム統括責任者：橋本　学
専門研修指導医：橋本　学（麻酔, 小児麻酔)、大下　愛子（麻酔)、板倉　紗也子（麻酔, ペインクリニック)、西田　賀津子（麻酔, ペインクリニック)、松本　恵美（麻酔）

認定病院番号　638
特徴：がん診療連携拠点病院であることから、全国から集まるがん患者の診療に携わる。このため、いわゆるメジャー手術が多い。特に、分離肺換気を必要とする呼吸器外科手術、食道外科手術は全国でも屈指の症例数である。また、頭頸部外科を有するため、特殊な挿管管理が必要な症例も豊富である。

16)茨城県立こども病院

研修実施責任者：奥山　和彦
専門研修指導医：
奥山　和彦　　（麻酔、小児麻酔、ペインクリニック）
武田　由記　　（麻酔、小児麻酔）
助川　岩央　　（麻酔、小児麻酔）

麻酔科認定病院番号：404

特徴：当院では主に小児外科の麻酔、小児心臓手術の麻酔を経験できる。多くの日帰り手術を経験することで短期滞在手術が患者とその家族にとって満足度の高い医療

サービスであることを理解するだろう。また、隣接する水戸済生会病院、および周産期センターがあるため小児の麻酔だけでなく産科麻酔など成人の麻酔研修も行うことが可能である。

17）水戸済生会総合病院

研修実施責任者　小林　可奈子（麻酔）
指導医：小林　可奈子（麻酔）、前田　良太（麻酔、ペインクリニック）、熊田　有紀（麻酔、ペインクリニック）
専門医：佐藤　恭嘉（麻酔）、武島　直子（麻酔）

認定病院番号　346

当院は病床数４００床の地域医療支援病院です。こども病院が隣接する総合周産期母子医療センター、ドクターヘリの基地を持つ救急救命センターを有する病院として、特に周産期救急、心臓血管疾患の治療、多発外傷、急性腹症などの症例を中心に、地域の救急医療拠点病院としての役割も担っています。こども病院と連携しており、小児の症例が多いのも特徴の一つです。

18）ニューハート・ワタナベ国際病院

研修プログラム統括責任者:宮田和人(麻酔・集中治療)
専門研修指導医:宮田和人(心臓血管麻酔・集中治療))
重松明香(心臓血管麻酔・集中治療))
佐藤　美智枝(心臓血管麻酔)
認定病院番号: 1727
特徴:成人心臓手術に特化した病院で, ロボット支援下心臓手術を行っている日本でも数少ない施設.
麻酔管理症例数　:813例

5. 募集定員

5名（予定）

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限まで志望の研修プログラムに応募する。書類審査、教授面接を経た後合否を決定する。第一回〆切8月31日、定数が充足された場合は採用できないことがある。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせ先は、順天堂大学医学部附属浦安病院麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。施設の見学も随時受け付けている。

順天堂大学医学部附属浦安病院麻酔科　教授

髙橋 伸二

住所：〒279-0021 千葉県浦安市富岡２－１－１

TEL 047-353-3111（代表）

E-mail　麻酔科〈ju-masui@juntendo-urayasu.jp〉

「施設見学希望」「見学内容問い合わせ」などのタイトルをつけて下さい。

Website　http://www.hosp-urayasu.juntendo.ac.jp/medicalcare/anesthesiology.html

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

１）十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能

２）刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力

３）医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣

４）常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

1)専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた１）臨床現場での学習、２）臨床現場を離れた学習、３）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. *専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス*

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。Generalist であることに加え、自分の得意とする領域をもち、そこでの深い知識と高い技量や判断力をもち、学会認定資格を得られるようにする。生涯教育ができる基礎的な知識や技量を身に着けるようにする。

■専門研修1年目

患者の状態や手術に応じた術前評価、手術麻酔に必要な基本的な手技と、解剖学、薬理学、生理学、病態生理学などの専門知識を修得することを目的とする。気管挿管、声門上器具の挿入、気管支ファイバーによる挿管、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、動脈カテーテル挿入、神経ブロックなどの基本的手技を習得する。術前から術後に至るまでの周術期管理の流れを理解する。

■専門研修２年目

1年目に習得した技能の発展、知識をより深い実践的なものとする。1年目で修得した技能を磨き、知識をさらに深いものとする。1年目と同様に１～２か月ごとの診療科別ローテーションを行う。術後集中治療管理が必要になるような比較的侵襲の大きな手術を行う診療科のローテーションが中心となる。侵襲的な手技や、肺動脈カテーテル挿入や経食道心エコー法などより高度の技能を要する手技を習得し、認定資格を得るようにするようにする。2年目までに学会報告の準備をする。

■専門研修3年目

2年目までは総合的な研修を実施するが、3年目は専攻医の興味や、将来への希望を活かして、心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、新生児を含む小児手術や、集中治療などのトレーニングを受ける。希望に応じてペインクリニックや緩和ケアなどのトレーニングも３～６か月の単位で行う。将来のsubspecialtyにつながるローテーションとする。学会発表などができるようにする。研究志向がある場合は、大学院における研究なども実施する。留学志望がある専攻医にも対応したトレーニングを行う。3年目は通常は院外で小児、循環器などの研修を開始する。

■専門研修4年目

これまでに受けたトレーニングをより発展したものとし、心臓血管外科麻酔や産科麻酔、集中治療、ペインクリニックなどのトレーニングを行う。将来、generalistを目指す場合には、プログラム内の病院で、多くの診療科の麻酔に関してトレーニングを受け、トラブルシューティングを含め、自分で実施する実力をつける。トレーニングを受ける一方、指導的な役割も一部果たすフェローとしてトレーニングを受ける。教育力をつけるとともに、将来の専門医として自立し、生涯教育ができるようにする。研究遂行能力や論文作成能力を習得する。

■専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

□研修実績記録

専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。

□専門研修指導医による評価とフィードバック

研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修４年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。メディカルスタッフによる評価も行う。

9. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

10. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。研修プログラム統括管理者は、この評価に基づ

いて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

11. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。

出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。

妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。

2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。

専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

12. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての静岡病院、水戸医療センターなど、医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、地域の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

13. プログラムの変更（2026年度）

研修医のニーズに応えてプログラム連携施設を追加することがある。

今年度の追加病院：国立がん研究センター東病院、がん・感染症センター駒込病院